



カナダ・サスカトゥーン市交流事業 2014

北緯52度のサスカトゥーン市は、4月でもマイナス10度前後の日々が続きます。4月16日そんな北の街から高校生20人と引率者3人の交流団が、約12時間の旅を経て、寒さが緩み始めた北広島へやって来ました。

国際交流協議会主催事業の交流は、広い視野と国際感覚を持った人材育成を目的に、平成4年から続いています。今年は北広島市が高校生を迎えました。

ホストファミリーの家庭に5日間滞在して、市内の中学校では生徒と共に琴や空手の授業を体験し交流しました。市役所を表敬訪問し市長との懇談、旧島松駅通所をはじめ近郊の名所を巡り北広島市への理解を深めていきました。

市内の中学校で生徒との触れ合い

日本の学校生活を体験するため、4月17日市内の中学校を訪問しました。全校生徒が盛大な歓迎会で温かく迎えてくれました。

始めは、距離感を持ってカナダからの高校生を見ていた生徒たちですが、一緒に琴や空手の授業を受けているうちに、距離感は全く無くなりました。

生徒たちは自ら授業で習った英語を使い、身振り手振りを交えながら、一生懸命コミュニケーションを取ろうと頑張っていました。

カナダの高校生も分かりやすいように、ゆっくり生徒に話し掛けていました。

彼らが給食を食べていると、いつのまにか外の廊下に生徒たちが集まり、窓越しに手を振っていました。もちろん彼らも笑顔で応えていました。

今度は娘がおもてなし

今回ホストファミリーを引き受けた中村洋子さんにインタビューをしました。

昨年娘が交流事業でサスカトゥーン市を訪問し、滞在先ファミリーの温かい歓迎を受けた。感謝と同時に今度は自分が迎えてあげたかったと話してくれた。

中村さん自身は英語があまり得意ではないが、今回のホームステイ募集に手を挙げ、娘が中心となり家族で、おもてなしをする事ができたそうだ。書道や着物などの日本文化を

一緒に体験してもらい、家族も充実した日々を過ごす事ができたと語ってくれた。

